

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月26日

事業所名：仙台市西花苑たんぽぽホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・密を防ぐため人数が多い時は、部屋を分散して活動をしている。	・出席数に応じた活動内容を検討していく。
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもの状態や出席数によって他クラス職員と連携しながら行っている。	・利用形態や子どもの状況を考慮しながら、登園スタイルや職員体制を考えていく。引き続き兄弟児への対応も検討していく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・イラストや写真表示等、子どもの特性やクラスの状況に応じて分かりやすい、過ごしやすい環境設定を心掛けている。	・障害の特性に応じて環境設定しているが多様な状態の子どもがいる場合の配慮の仕方を検討していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・感染予防対策を行い常に清潔を保つようにした。 ・利用する子どもに合わせ各スペースを考慮したり、破損や劣化箇所は迅速に対応し安全を確保している。	・子ども用個室トイレが少ないため各クラスの時間帯をずらして重ならないようにしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・コロナ感染予防対策について保護者からの意見に迅速に丁寧に対応するように心掛けている。 ・日頃より保護者からの声を職員間で共有し、対応している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・コロナの影響で研修数は少なかったが、リモート研修を導入した。 ・利用者への理解を深めるための研修を積極的に行った。	・今後もリモート研修を広く活用し、参加しやすくしていく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・クラス職員で子どもや保護者のニーズを話し合い作成している。園長、主任からの客観的な助言も得ている。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・支援会議では関わる全職員が意見を出し合い具体的な支援内容を検討している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・子どもの姿を保護者としっかり共有した上で支援している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			

	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・固定化しないように工夫しているが、繰り返し楽しむ工夫もしている。 ・同じ活動でも素材や展開の仕方に変化をもたらすようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・個別活動を行うことで、子どもへの理解をより深められ、集団活動での支援にも繋がっている。	
適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・クラス間だけでなく全体打ち合わせで日々役割分担を確認し、不在職員には記録を回覧している。	・大事な事はホワイトボードに記入したり、個別に伝えることで周知を徹底していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・日々の反省の中で確認しあい、職員間での周知及び共通理解し、どの職員も同じ対応ができるように努めている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・毎回、ケース記録や日誌に記入している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・クラスリーダーや医療行為が必要なケースには看護師、園長、主任も参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要なケースについては関係機関と連携しながら情報を共有している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・相談支援事業所の担当者と連絡を取り合い連携した支援を行っている。	・記録を回覧し情報を全職員で共有することで、他クラスの児の支援状況の理解にも努めていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・必要に応じてリハビリ等を見学している。(今年度はコロナの影響で不可) ・医療行為が必要なケースは、主治医からの指示書を提出してもらう。	・リハビリの見学や、関係機関担当者や連携して日々の療育に生かしていきたい
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行支援シートを作成し引継ぎを行っている。また、後日訪問し担当職員と情報共有している。 ・保護者より引き継ぎや情報公開の同意を書面で確認している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・引継ぎ書を作成し入学前に引継ぎを行っている。また、必要に応じて担当職員と話し合いをしている。 ・保護者より引き継ぎや情報公開の同意を書面で確認している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・定期的に会議や研修会に参加し、その内容の報告があるので他センターの状況を知ることができる。	

	③①	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡ノートを活用し子どもの状況を共通理解できるようにしている。	・発信の少ない保護者への配慮に心掛ける。
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・必ず児童発達支援管理責任者同席のもとで面談を行い一緒に確認している。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・その場で助言したり、職員間で話合っ て助言したりとケースに合わせて対応している。 ・保護者の悩み、相談は随時受け付け支援している。	・相談内容によっては、個人情報に配慮しながら積極的に他の関係機関と連携していく。
保護者への説明責任等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・保護者の申し入れには、園長、主任にその都度相談した上で対応している。 ・登園の難しい親子の相談にも電話で丁寧に応じている。	・相談内容によっては、個人情報に配慮しながら積極的に他の関係機関との連携していく。 ・出来るだけその日のうちに聞き取り不安を先延ばししないようにしていく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・ケース記録、USB等は施錠できるロッカーに保管している。	
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・ミーティングの中でクラスリーダーが中心となり、方法や配慮点を細かく確認するようにしている。 ・意思表示の難しい子どもに対し絵カードや手順表を作成している。	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・コロナの影響で地域交流事業が実施できなかったが、落ち着いたら方法を検討しながら再開したい。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・感染症に関する対応マニュアルについて学ぶ機会を設けた。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎月、内容や時間帯を想定して実施している。	・災害時に直ぐに対応できる館内放送設備について検討する。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④④	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・定期的に職員全体で資料の確認を行っている。	

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。